

## 「上に立つ権威に従うべきです」

2018年10月23日

ローマの信徒への手紙 13章1節～7節 人は皆、上に立つ権威に従うべきです。神に由来しない権威はなく、今ある権威はすべて神によって立てられたものだからです。従って、権威に逆らう者は、神の定めにくるくことになり、背く者は自分の身に裁きを招くでしょう。実際、支配者は、善を行う者にはそうではないが、悪を行う者には恐ろしい存在です。あなたは権威者を恐れないことを願っている。それなら、善を行いなさい。そうすれば、権威者からほめられるでしょう。権威者は、あなたに善を行わせるために、神に仕える者なのです。しかし、もし悪を行えば、恐れなければなりません。権威者はいたずらに剣を帯びているのではなく、神に仕える者として、悪を行う者に怒りをもって報いるのです。だから、怒りを逃れるためだけでなく、良心のためにも、これに従うべきです。あなたがたが貢を納めているのもそのためです。権威者は神に仕える者であり、そのことに励んでいるのです。すべての人々に対して自分の義務を果たしなさい。貢を納めるべき人には貢を納め、税を納めるべき人には税を納め、恐るべき人は恐れ、敬うべき人は敬いなさい。

上記の言葉ほど物議を醸した言葉はない。パウロの「人は皆、上に立つ権威に従うべきです」という言葉を聞いて喜ぶのは、権力を持っている者たちであろう。キリスト教は、聖書を「神の言葉」として絶対的に聞くべきものとしている。権力者が、この言葉を笠に着て横暴に支配し、民衆が抑圧を受けた事例は数限りない。

パウロは、権威に従うべき理由を、「神に由来しない権威はなく、今ある権威はすべて神によって立てられたものだからです」と言っている。パウロの信仰は神が全世界を支配しておられるという信仰である。従って、継承であれ、謀反であれ、選挙であれ、権力を得た者は、神によるものと理解できる。だから、「権威に逆らう者は、神の定めにくるくことになり、背く者は自分の身に裁きを招くでしょう」と言う。更に、支配者は、善を行う者にはそうでないが、悪を行う者には恐ろしい存在となる。権威者を恐れないことを願うなら善を行いなさい。そうすれば、権威者から褒められる。権威者はあなたに善を行わせる神に仕える者なのである。

権威者、権力者について、ここまで言うかと驚き入る。主イエスは愛と真実をもって、民衆の間で善を行われた。ところが宗教的権力者たちは、主イエスがユダヤ教体制を壊す者であるとして、死に追いやったと、福音書は書いている。パウロは福音書を読んでいないが、主イエスの死の事実をどのように理解していたのであろうか。また、パウロはキリスト教に回心してから、良心を持って福音宣教に励んでいたが、そのため、ユダヤ教の権威者たちから迫害されたのである。この事実を、どのように受け止めているのであろうか。

パウロは、権威者はあなたが善を行わせるために神に仕えているのだから、善を行いなさいと勧め、また、権威者は徒に剣（武力）を帯びているのではなく、悪を行う者に怒りをもって報いるため、神に仕える者として、励んでいるのだと言う。怒りを逃れるためだけでなく、良心のためにも、権威に従うべきである。全ての人々に対して自分の義務を果たし、「貢を納めるべき人には貢を納め、税を納めるべき人には税を納め、恐るべき人は恐れ、敬うべき人は敬いなさい」と勧めている。

上記の言葉は、宗教的熱狂に駆られて、ローマ帝国に徒な抵抗をすることによって、自らを傷つけることのないように諭した、牧会的配慮の言葉と理解すれば納得できよう。国家や権力についてのキリスト教的指針であるとは、断じて受け入れられない。